

ブラジルチドメグサ除去方法（案）

2008. 7. 11時点

筑後川河川事務所では、専門家のご意見なども踏まえながら、ブラジルチドメグサ除去方法（案）を作成いたしましたので、ご紹介します。なお、当案は、今後の検討などにより内容が変更されることがあります。

1. 除去方法について

（1）【除去の原則】

- ①下流に流さない
- ②根こそぎ取る（ほふく茎で地表をほう）
- ③処分する（放置せず焼却等を行う）

（2）【除去方法】

（事前に、除去範囲について重要種調査を行い、必要に応じて移植することが望ましい）

(2)-1. 群落が浮いている場合

（浮いている場合は、花や種がない場合が多いので、有無を見てある程度判断）

- ①除去箇所や下流をオイルフェンスと網等で囲む。
- ②根や茎が他の植物等に絡んでいる事が多いため、絡んでいる植物をハサミ等で切り、絡んでいる植物ごと除去する。
- ③フェンス内の破片を全て除去する。
- ④フェンスを寄せながら集まる破片を除去する。



(2)-2. 群落が根付いている場合

（根付いている場合は、花や種が見られる場合が多いので、有無を見てある程度判断）

- ①除去箇所や下流をオイルフェンスと網等で囲む。
- ②表層15cm程度表面の土も一緒に除去する。
- ③フェンス内の破片を全て除去する。取れた種は浮かんでおり、直径2mm程度で小さいため注意して除去する。
- ④フェンスを寄せながら集まる破片を除去する。



↑根

(3)【処分方法】

(3)-1. 現地焼却する場合

薄く広げ、2週間ほど乾燥後、現地焼却する。

スペースがない場合は近くの空き地（田・畑・山等）を借地する。

(3)-2. 処分場等へ搬入する場合

産廃処分、もしくは自治体と協議し、焼却場に搬入する。

除去のための移動については、法律にかからない事を環境省に確認済み。

(4)【モニタリング】

除去箇所を重点的にモニタリングする。（除去前の状況も含め情報を蓄積）

専門家によると一度で完全に除去する事は困難であるため、見つけ次第除去を繰り返す。

上下流に広がる事が他河川で確認されているため、除去箇所周辺も監視する。

留意点

- ①繁殖力（2～3 m / 4月～6月 成長）が旺盛なため、早期対応が必要。
- ②茎がちぎれやすく、ちぎれた茎から芽と根が出るため、破片も除去する。
- ③陸上でも発芽するため、薄くひろげ、早期に乾燥させる。
- ④茎は基本的に土表面を匍匐しているが、土の堆積の状況で5～10 cm程度土の中にも匍匐している事が多く、種が土表面付近に着いている事も多いため、表土についても15 cm程度の除去が望ましいと思われる。
※根については、地中20 cm程度まで伸びてますが、根での繁殖はないようです。
- ⑤川岸の茎が水中にほふくするため河岸の土も除去する。
- ⑥開花（4月）・結実（5月）が見られるが、種子での繁殖は不明。
種は直径2mm程度で、浮く。
- ⑦種が見られる場合、種が成熟する6月中旬までに除去するのが望ましい。
- ⑧今後の駆除の基礎資料とするため、箇所ごとに現地の状況や対応について情報を残す。
- ⑨除去前に、重要種（特に分布域が小さい多年草や貝類）の調査を行い、必要に応じて移植する事が望ましい。

日田市 二串川にて (H19.6)



土表面にも花や実(種)がある



茎は土中5cm程度埋まっていた



上：丸いのは開花前の花つぼみ
開いているのが花
下：花が落ちた直後と思われる果実
(中に熟成前の種)



果実(中に熟成前の種)、直径2mm
写真は大きなもので3mm